
色々雑談部屋

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色々雑談部屋

【Nコード】

N8862Y

【作者名】

紀葉

【あらすじ】

紀葉とドンキーが色々雑談します。

質問に答えたり、ゲストを招くこともあるかも？

リクエストも受付中！

初めに（前書き）

とりあえず説明をば。

初めに

紀葉「どうもこんにちは。『普通で普通じゃない日常』の主人公であり、同作品で作者の一番のお気に入りキャラの八木紀葉です。」

ドンキー「ドンキーコングシリーズの主人公で、作者の嫁を超越した何かのドンキーコングです。」

紀葉「えーっとこれはですね、私達がいろいろお話したり質問に答えるという趣旨のものなんですけどね…。」

ドンキー「この企画長く続きそうにないな…。」

紀葉「そういうこと言うなよ…。」

ドンキー「で、今回は何するんだ？」

紀葉「ちよつと募集したいものを言うよ。」

・質問

作者についてでも、キャラについてでも構いません。

・意見

どんな意見でもokです。

・リクエスト

何か書いてほしいものがあれば。

紀葉「こんなもんか。」

ドンキー「需要あるのか？」

紀葉「言うな。とりあえず、何かあればこの感想に送ってくださ
い。」

ドンキー「まあ無くても何かしら書くから大丈夫だけだな。」

紀葉「では今回はこれで。さよーならー。」

初めに（後書き）

ご意見、待ってます！

第1回（前書き）

ドンキー「おい紀葉、本番：あれ？どこ行った？」

紀葉「ばあ！」

ドンキー「うわっ！ビビルワァ！」

紀葉「これがホントのびっくりドンキーwww」

第1回

紀葉「どうも。紀葉です。」

ドンキー「ドンキーです。」

紀葉「さっそくだが質問に答えよう!」

ドンキー「来たのか!？」

紀葉「来たよ。」

ドンキー「マジで？」

紀葉「マジです。ではさっそく…カルピスフロートさんからドンキーに質問。」

ドンキー「俺？」

紀葉「作者とバナナならどっちが好き?とのことだ。」

ドンキー「バナナに決まってるだろ」K。

紀葉「ですよねww」

作者涙目。

ドンキー「紀葉ならちよつと悩んだかも…。」

紀葉「へっ？」

ドンキー「でもバナナ。」

紀葉「やっぱりな…。まあ次の質問行くぞ。」

ドンキー「まだあるのか…。」

紀葉「うん。阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「作者にか。」

紀葉「なんで『普通に普通じゃない日常』を書こうと思った？とのことだ。」

ドンキー「なんか理由あるのか…？」

紀葉「作者のコメント。『実は中1の頃から普通（ryみたいな話を脳内で繰り広げていて、小説家になろうを見つけているんな人の小説を読んで、せっかくだからこの物語を小説にしちゃうか！というノリで書き始めました。ちなみに、最初は紀葉、千樹、杉助、桜太郎、百合の五人で行こうとしてました。』…とのこと。」

ドンキー「中1なのに中2病か。」

紀葉「誰うまwwwよし、次ー！」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「また作者か…。」

紀葉「リリカルなのは知ってますか？知ってたらお気に入りのキャラは誰ですか？と…。」

ドンキー「あのアニメか…。」

紀葉「作者のコメント。『リリカルなのは知ってますよ。まあニコニコから得た知識が六割ですけどねwwお気に入りのキャラはなのはです。ちなみに嫌いなのはもちろんクソ赤帽ですww』とのこと。」

ドンキー「クソ赤帽ってヴィータのことか。確かにあいつ逃走中とかで問題行動起こしまくりだもんな。」

紀葉「ホントだよね…。死ねばいいのに…。」

ドンキー「まだあるか？質問。」

紀葉「うん。しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者への質問多いな！」

紀葉「スマブラメンバーで一番好きなキャラ…はドンキーだと思うので、一番嫌いなキャラは？だって。」

ドンキー「俺のこと好きって言うわりには俺のことあんまり使っていないだろ作者。」

紀葉「作者曰わく、パワータイプや重量級のキャラは使いづらいんだって。」

ドンキー「練習しろよ!」

紀葉「まあそれはおいといて。」

ドンキー「おいとくのかよ!」

紀葉「作者のコメント。『ガノンドロフです。すんごい使いづらい。使いたくもない。見た目好きになれない。リアルなおっさんは基本的に全員そうだけど。あと亜空のあれ見てもただの外道だし。悪いイメージばかり。』…らしい。」

ドンキー「俺もガノンの野郎は嫌いだぜ。亜空の使者の件でロボットの仲間に亜空爆弾を無理やり起動させたり、ロボットを攻撃させたり、ロボットかわいそうってもんじゃなかったぜ…。」

紀葉「ドンキー…。」

ドンキー「事件の後ボコボコにしてやったけどな。」

紀葉「あ、やっぱり?」

ドンキー「そりゃそうだ。」

紀葉「ふーん…おっと、そろそろ時間だね。」

ドンキー「おお、今回はここまでか。」

紀葉「まだまだ質問受け付けてますよ！」

ドンキー「作者、俺、紀葉以外にでもおkです。」

紀葉「それでは皆さん、ご機嫌よう！さよーならー！」

第1回（後書き）

予想以上にたくさん来て良かったです。

第2回（前書き）

紀葉「ちわーっ！三河屋です！」

ドンキー「あらサブちゃん。」

紀葉「…普通逆だよなw」

ドンキー「てかなんだよこのコントw」

第2回

紀葉「えー、早くも二回目です！今回も三度の飯よりNＬが好きな私紀葉と！」

ドンキー「任天堂のゴリラ代表、ドンキーでお送りします。」

紀葉「ゴリラ代表ww確かにww」

ドンキー「任天堂のゴリラといえば俺だろ。」

紀葉「まあそうだねwwではさっそく質問に移りたいと思います！」

ドンキー「ガンガンいくぜ！」

紀葉「阪神虎之介さんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「3つ!？」

紀葉「まず1つ目。バナナ以外で好きなものはある？」

ドンキー「バナナ以外か…。そうだな、みんなでレースしたり乱闘したりすることかな。」

紀葉「みんなと競い合うことが好きなんだね。」

ドンキー「おう。」

紀葉「じゃあ2つ目。今まで出たことがあるゲーム以外で出たいゲ

ームは？」

ドンキー「うん…。思いつかない…。」

紀葉「マリオの本編とかは？」

ドンキー「無理だしどっちゃっていうと出たくない。自分の分だけでいっぱいだからな…。」

紀葉「そうか…。ちなみに作者は今出てるゲームでも十分ドンキーを見れるからでほしいゲームは特に無いらしいよ。」

ドンキー「まあそうだろうな。」

紀葉「じゃあ3つ目。阪神と読売どっち好き？」

ドンキー「…阪神と読売ってなんだ？」

紀葉「…ああ、そっちには阪神と読売無いんだね…。野球チームのことなんだけどさあ…。」

ドンキー「野球チームか…。俺野球チームでキャプテンになったことあるぜ。」

紀葉「マリオ野球ですね、わかります。ちなみに作者はほとんど野球を見ないらしい。」

ドンキー「どうでもいいな。」

紀葉「そうだね。じゃあ次はMR・ホースさんから作者に2つ質問。

」

ドンキー「やっぱり作者への質問多いな…。」

紀葉「1つ目。けいおん！のキャラで誰が好き？」

ドンキー「あー…あのほのぼのしてるやつか…。」

紀葉「作者は唯が好きらしい。表情が可愛いからって言ってた。」

ドンキー「表情か…。」

紀葉「表情です。じゃあ2つ目。魔法少女まどか マギカのキャラで誰が好き？」

ドンキー「もう何も怖くない！」

紀葉「おいやめろ。作者はなんとなくまどかが好きらしい。」

ドンキー「なんとなくかよ…。」

紀葉「そこまで詳しいわけじゃないらしいからな、作者も。はい次。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「りゅーとさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「俺らに質問しても全然いいのに…。」

紀葉「1つ目。スマブラで好きなトリオはありますか？」

ドンキー「トリオか…色々あるよな。」

紀葉「作者に聞いたら、マリオ、ドンキー、ヨッシーのトリオと、カービィ、メタナイト、デデデのトリオが好きらしい。」

ドンキー「なるほど。」

紀葉「あとトリオじゃないけど、ドンキー、ディディー、ファルコン、オリマーの4人が好きだとも言ってたな。」

ドンキー「やっぱ俺がらみ多いな…。」

紀葉「それからスマブラじゃないけど、ドンキー、ディディー、ラッキーのトリオが超好きって…。」

ドンキー「なんで言うんだよ…。」

紀葉「言いたかったんだろうよ。よし2つ目。」

ドンキー「はあ…。」

紀葉「トイレのドアを開けたら、作者が『和式トイレとドンキーは俺の嫁ー!』と言いながら襲いかかってきました。どうすればいいですか?」

ドンキー「なwんwじゃwそwりやw w w」

紀葉「作者のコメント。『殴ればいいと思うよ。あと言っときます

けどりゅーとさん、私洋式派です。それとドンキーは嫁じゃなくて嫁を超越した何かです。』…だって。」

ドンキー「まるで意味がわからんぞ！」

紀葉「そんなこんなでもう時間だ。」

ドンキー「最後意味不なまま終わった…。」

紀葉「ではまた次回。シーユーアゲイン！」

第2回（後書き）

やってやった……！俺はやってやったぞおおお！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8862y/>

色々雑談部屋

2011年11月28日01時46分発行